



今週のポイント

いちよしアセットマネジメント

世界的にAI(人工知能)・半導体株が軟調に推移。日本ではキオクシアホールディングスの下落が目立つ

AI・半導体株の下落に拍車がかかっています。SOX(フィラデルフィア半導体株指数)は6月22日の高値から7月17日までで20%の下落となり、弱気相場入りが濃厚です。日経半導体株指数も同期間に31%下落、またSOXとともに急上昇を演じた韓国総合指数も、6月22日から7月16日まで(翌17日は休場)25%以上下落しています。

日本株市場のスター銘柄であるキオクシアホールディングスにいたっては、高値から52%の下落です。一時はトヨタ自動車を抜いて時価総額トップとなりましたが、その後陥落し、わずか19日間で時価総額が約30兆円減少したことになります。キオクシアは6月の東証売買代金の4分の1を占め、信用買い残^{※1}のピークは1兆円を超えていました。3月末からの強気相場(AI・半導体集中相場)の中、集中が極まった結果の調整と言えます。キオクシアに資金を投じたのは個人投資家だけではありません。機関投資家もパフォーマンス競走上、買わざるを得ません。また、グローバルマネーも押し寄せていました。

メモリー株特化のETF(上場投資信託)「DRAM」に資金が集中

半導体メモリー株特化の新ファンドに投資家が殺到しています。4月2日に米国市場で設定された、ティッカーシンボル^{※2}「DRAM」で知られる「ラウンドヒル・メモリーETF」は、わずか2週間で10億ドルを超える資金を集めました。ETFとしては異例のことです。DRAMは、コンピューターのメモリーおよびストレージ関連株に投資します。この分野は、規模は小さいながらも非常に活況を呈しており、AI整備に伴う旺盛な需要の恩恵を受けています。同ファンドの資金の4分の3以上が、韓国のサムスン電子とSKハイニックス、そして米マイクロン・テクノロジーのわずか3銘柄に集中しています。

DRAMは直近ピーク時に25億ドルまで資金が流入しています。また、3社だけでなく、キオクシアにも投資しています。DRAMの成功を機にメモリー株特化型のETFが増加し、それによってメモリー株の急上昇がもたらされたことで、短期的過熱感を演出したものと思われます。

ASLMホールディングとTSMC(台湾積体電路製造)の決算は、AI・半導体需要の強さを示唆する結果に

AI・半導体株が軟調な中、注目されたイベントがオランダの半導体製造装置メーカーのASLMホールディングと、半導体受託製造のTSMCの決算です。ASLMは15日、2026年12月期の売上高見通しを上方修正するとともに、粗利益率を従来予想の51~53%から54~56%に引き上げています。量産効果に加え、設備メンテナンスや導入支援事業が好調なため収益性が高まる模様です。4-6月期決算は、売上高が前年同期比21%増の93億ユーロ、純利益は27%増の29億ユーロで、事前の市場予想(26億ユーロ)を上回りました。クリストフ・フーケ最高経営責任者は同日に公開した動画で、「(半導体の)需要の高まりを受け、顧客は設備投資を増やすだけでなくすべての計画を加速させるようになった」と述べています。また、半導体の生産に欠かせないEUV露光装置の生産能力を2027年に前年から3割増やし、2028年にはさらに前年比3割増やすと明らかにしています。

そして、16日に発表されたTSMCの決算では、4-6月期の売上高が前年同期比36%増の1兆2,703億台湾ドル、純利益は77%増の7,065億台湾ドルとなり、売上高・純利益ともに四半期として過去最高を更新しました。純利益は事前の市場予想(6,268億台湾ドル)を上回っています。魏哲家最高経営責任者は2026年通期の総収入の成長率について、「40%をわずかに上回る水準」と説明しました。前回の決算発表時の「30%超」から大幅に上方修正です。AI関連収入の2024~2029年までの伸び率については、これまで示していた年率換算で「50%台半ばから後半になる」との見通しから「さらに強くなる」と強調しました。

ASLM、TSMCの業績見通しを見る限り、AIの成長ストーリーに陰りはありません。今般のAI・半導体株の下落は、需給による自律的調整と考えられます。今週以降のハイパースケーラー^{※3}の決算発表で今後の投資見通しを確認する必要がありますが、AI・半導体株の過度な下落は投資の好機です。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

~ワンポイント用語集~

※1 信用買い残…信用取引において、信用買いをされてまだ決済されずに残っている株式の残高(株数)のこと。反対に、信用取引によって売られて、まだ決済が済んでいない残高を「売り残」と言う。買い残が多いということは、株価が上がると考えている投資家が多いということになる。

※2 ティッカーシンボル…欧米などで取引所に上場する銘柄を識別するために付けられるコード。

※3 ハイパースケーラー…100万台以上の巨大なサーバーリソースを保有する企業の総称。世界中でクラウドサービスを展開しているアマゾン、マイクロソフト、グーグル等を指す。

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績等の記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。